



私の
**なんとか
しなきゃ!**

Vol. 14

「なんとかしなきゃ! プロジェクト」サイト (nantokashinakya.jp/)では、東日本大震災の被災地を支援しているプロジェクトメンバーの活動状況について紹介しています。

PROFILE

1963年岐阜県出身。山形大学医学部卒業後、医療分野の国際協力に携わる。2002年にNPO法人地球のステージを設立。国際協力に取り組みながら、宮城県名取市に「東北国際クリニック」を開院。東日本大震災で被災しながらも、翌日から2カ月間、24時間体制で診療に臨む。現在、全国各地で「地球のステージ 東日本大震災と国際協力版」を展開中。写真や映像、歌を交えて被災地の状況を伝えている。「なんとかしなきゃ! プロジェクト」著名人メンバー。



photo by Shinichi Kuno

1パーセントの希望を胸に

医師 **桑山 紀彦**

KUWAYAMA Norihiko

2011年3月11日午後2時46分、私は埼玉県の上野原中学校で公演中にあの大地震に見舞われました。これまで20年以上にわたり、開発途上で緊急支援に携わってきましたが、まさか自分たちの活動拠点である宮城県名取市が被災地のど真ん中になるなんて想像もしていませんでした。最初は何が起こったか、ただただ、目の前で起こっていることを現実として受け止めるのに必死だったのを覚えています。

東北国際クリニックは川の堤防に守られ、地域の中で唯一、津波の被害を免れた病院でした。ここで落ちこんでいる場合じゃない。今、私がすべきことは、自分のクリニックで地域の人たちを助けることだと、スタッフと一緒に自身を奮立たせました。とはいえ、電気も水道も完全に止まっていたので、最初はヘッドライトを使った診察。ようやく4日目に電気が通った時は、本当にうれしかった。

たです。

これまで経験したことのない現実にくじけそうになることもありましたが、そんな時に手を差し伸べてくれたのが国際協力を通じて知り合った仲間たちでした。全国各地から物資や医薬品が届けられ、名取に来て診療を手伝ってくれた人もいました。途上で試行錯誤した経験がある人は、ちょっとやそっとの逆境には負けません。何もないところから“工夫する力”が、今回の震災では大変役に立っています。

津波とは恐ろしいもので、生きるか死ぬかのどちらか。ひどい外傷の人は少なかったのですが、みんなの“心”は確実に深く傷ついていました。特にたくさんの子供たちが、家族や友達を失った悲しさを誰にも話せずに我慢していました。大人に迷惑をかけてはいけないと思ったんです。そこで私は心理社会的ケアのため、子どもたちの“心”と対話

をしました。今まで途上で使ってきたアプローチですが、まさか、自分の街の子どもたちになることになるとは思いませんでした。

震災から半年以上が過ぎた今、少しずつ、被災地のことが忘れかけられていると感じることがあります。でも東北には、まさに今、立ち上がろうとしている人がたくさんいます。私たちはほんの1パーセントの希望があれば、復興に向かって進んでいける。その希望の光が消えないよう、どうか皆さん、これから生まれるたくさんの物語に耳を傾けてください。そして被災地だけでなく、東北に支援を寄せてくれた途上国にも、みんなで恩返しをしていきましょう。

「なんとかしなきゃ! プロジェクト」は、開発途上国の現状について知り、一人一人ができる国際協力を推進していく市民参加型プロジェクトです。ウェブサイトを中心に、さまざまな国際協力のカタチを提案していきます。[なんとかしなきゃ.jp](http://nantokashinakya.jp)
詳しくはこちらから→